

N：「近く改めて本誌に説明を載せる企画はあるのか。」

H：「事務局で考えている。特に、図は縮めることを考慮に入れて文字などもはっきり書いてほしい。地区によっては大変きれいな原稿が投稿されるところもあるので、指導者の方々にも、このことをよろしくお願

したい。」（論文の書き方については、本誌 631～634 ページをご覧ください。）

司会：「我々としては実力以上のものをと欲ぼるので大変だが、これからも、いっそうよいものを作るよう、努力していきたい。」

昭和51年度 日本気象学会奨励金受領者選定理由書

奨励金受領者：山田幹夫（高松高等学校）

研究題目：衛星写真を中心とした高校気象教育カリキュラムの改良

選定理由：

山田会員は昭和28年来一貫して高校教育に従事し、そのかたわら、気象教育改善に努力してきた。すなわち、これまでとかく平面的な説明になりやすく、天気図型の暗記に終わっていた気象の学習に、気象衛星写真の学習を取入れ、気象現象を立体的に理解させることを試みた。特に気象学習の基本である大気循環を30日平均半球雲写真などを利用して理解させるなどユニークな試みを行っている。

今後の計画として同会員は、NOAA データセンターから最新の雲写真を入手し、これらをもとにして、高校地学学習における気象学習を立体的かつ実証的なものに改善することを考えている。また同会員はさらにこれを気象学習のカリキュラムにまでまとめ上げる計画を持っている。

このような研究は、気象学の底辺を広げ、気象学の将来の発展に大きく寄与するものと考えられ、本学会はここに同会員に奨励金を贈るものである。

奨励金受領者：力武恒雄（名古屋地方気象台）

研究題目：中部日本の天候に関する解析的研究

選定理由：

力武会員は、昭和47年以来名古屋地方気象台で長期予報を担当しているが、そのかたわら、長期予報に関連する数々の研究を発表してきた。

夏季の天候については、高温発生時に、南アジアに中心を持つ上層高気圧の東方への張り出しが日本付近で北に偏していることを指摘し、それが日本付近の中下層の高気圧性循環におよぼす影響をうず度方程式等を用いて解析している。

また寒候期における、中部日本の天候経過と極東高緯度のブロッキング高気圧についての解析や、東海地方に

おける1年間の天候経過を極東における気圧配置と関連させた調査などが報告されている。このような調査はその地方の気象特性の把握を通して、長期予報の精度向上につながるものである。

力武会員は、上記の諸問題について中部地方の地域特性を考慮しさらに詳細な解析の研究を計画している。本学会は同会員の研究の成果を認め奨励金を贈って、同会員の研究の進展を期待するものである。

奨励金受領者：松村三佐男（室戸岬測候所）

研究題目：インデックス・サイクルの長期予報への利用の研究

選定理由：

松村会員は、昭和45年に気象大学校を卒業して、大阪管区気象台に勤務を始めて以来、大気大循環に興味をいだき、一貫してインデックス・サイクルの長期予報への利用を研究している。

松村会員は、これまでの研究において、東西指数の低い状態の顕熱輸送の問題に重点を置き、夏季の北緯50度に南に向かう顕熱輸送が存在して、チベット高気圧・北半球の超長波の発達、および干ばつを伴う西日本の酷暑に関連していることを定量的に調査した。この研究成果の一部は、すでに大阪管区気象台の長期予報にも利用されている。さらに同会員は、100mb ならびに 300mb の資料に重点を置いてインデックス・サイクルを計算し、ブロッキング高気圧の出現を予報する研究を計画している。

グループ計画など、世界的に気候変動に対する学問的研究の重要性が高まっている折から、本学会としてもこの種の研究の促進を図る必要を認め、同会員に奨励金を贈るものである。

同会員は、現在室戸岬測候所に勤務し、他の研究者との討論の機会を持つことがはなはだ困難な状態にある。本学会は同会員が奨励金を受領することによって、他の研究者との交流を頻繁にし、研究を充実させることを期待している。